

未来医療研究人材養成拠点形成事業  
 選定事業の概要と推進委員会からの主なコメント  
 [テーマB：リサーチ・マインドを持った総合診療医の養成]

		整理番号	B - 6
申請担当大学名 ( 連携大学名 )	富山大学		
事業名	地域包括ケアのためのアカデミックGP養成		
事業責任者	医学部長 村口 篤		
<b>事業の概要</b>			
<p>本事業では、地域包括ケアシステムを構築するために、富山大学に「とやま総合診療イノベーションセンター」を設置し、富山の地域医療の養成ゾーン(教育・研究・政策)と実践ゾーン(地域医療・多職種連携)を一本化する。そのために、養成ゾーンと実践ゾーンの各々を専門とするリサーチマインドを持ったアカデミックGPの養成を行う。人材養成は、ステップ1(医学生)で地域医療の理解と研究マインドの涵養を行い、ステップ2で専門医取得の準備をし、ステップ3で総合診療ライセンス(専門医)を取得、ステップ4(インテンシブコース)でアカデミックGPの育成を行う。総合診療以外の専門医の転職や女性医師の復帰支援として、ステップ4から参入を可能とする。本事業は、富山大学、県、市町村、医師会、地域医療機関、多職種医療関係者、および住民によるオール富山で取り組む。</p>			
<p>推進委員会からの主なコメント : 優れた点等、 : 改善を要する点等</p>			
<p>特定専門領域に強い総合診療医を養成するという視点は独創性がある。          住民参加型の地域包括ケアを目指すという視点は有効である。          地域での活動が実践済み(南砺家庭地域医療センター)であるところが強みである。          県や地域の病院との連携にも実績がある。          県、医師会との連携が良くフェロシップコースに多彩なプログラムが準備されている。          本事業の取組によって、従来の総合医養成コース以上の成果がでるよう、更なる取組に期待したい。          在宅医療への取組の充実が望まれる。          地域の医療ニーズからリサーチを開始するというプログラムになるよう期待したい。          医学生のうちにリサーチ・マインドを教育するプログラムを用意することも望まれる。          養成ゾーンと実践ゾーンの一体化は重要であり、具体的方策を示すことが必要。</p>			